

開催日：平成31年1月15日（火）

開催場所：釧路地方合同庁舎5階 第1会議室

釧路湿原自然再生協議会 第22回旧川復元小委員会 議事要旨

会議の冒頭、事務局から第21回旧川復元小委員会の発言概要と今後の検討方針（案）について説明を行った。

また、委員長に神田委員、委員長代理に針生委員が選出された。

■議事1：茅沼地区旧川復元事業について

事務局（釧路開発建設部）から説明を行い、内容について協議が行われた。

（1）茅沼地区旧川復元事業について

（委員）

P.7とP.8に地下水位の変化が地盤高との差で示されているが、旧川復元前後で地下水位が上昇あるいは低下したのかは標高で見て確認する必要がある。どのように理解したらよいのか。

（事務局）

地盤標高をゼロとした場合の地下水位を示しており、標高については示していない。次回以降、データの示し方を工夫する。

（委員）

ハンノキ林の環状剥皮を行うということだが、湿原植生の再生は最終的にどのような姿を目指すのか。環状剥皮の位置づけがわからない。

（事務局）

実施計画で右岸側はヨシ群落が再生する予測だが現状はハンノキ林となっている。ハンノキが枯れるまで長期間かかると予想されるため部分的に人為的にハンノキを除去し、林床に光が当たるようにし、湿原植生がどのように回復するかを調べたい。

（委員）

環状剥皮は、林床植生の回復の程度を見るためということか。

（事務局）

そうである。

(委員)

現地のハンノキは葉も減っておりかなり弱ってきている。そのうち枯れるとは思いますが、枯れるまでに数十年かかると思われる。事業者はもう少し早く植物の変化を見たいということで、部分的な試験伐採を検討している。根本から伐採するのが一番良いが、ハンノキの本数はかなりあり、費用の面も考慮して環状剥皮を提案した。

(委員)

ハンノキの調査地点を4箇所設定しているが、平均樹齢、立地による肥大生長の幅の違い、樹幹解析による樹木の平均容積も記録しておくが良い。環状剥皮を行うことで、何年間か萌芽が出るのではないかと思うので、その処理方法も検討しておく必要がある。幌呂地区でのハンノキ林の調査データも参考にするとよい。

(委員)

本州でも、川で木が増え、治水上も環境上も問題になっている箇所がたくさんある。伐採した木を市民の方が薪等に利用してコストを削減できる仕組みを検討できないか。

(委員)

ハンノキは火力が弱いので暖かくない。あまり湿原には人が入らないほうがよいと思う。

(委員)

薪等の燃料にするには搬出が大変で難しいと思う。活用方法や工夫できることがあれば考えていきたい。

(委員)

今年は土が凍る前に雪が降ったので、簡単に車では入れない状態である。砂利を入れて道路を作ればコストがかかる。馬で入るのであれば何とかなるかもしれない。

(委員)

市民が関わるプログラムを準備しておくことは重要である。冬の時期は右岸側を歩いて事業箇所に行くことができる。

(委員)

我々が思っている以上に参加したいという意欲が市民側にある。

■議事2：ヌマオロ地区旧川復元事業について

事務局(釧路開発建設部)から説明を行い、内容について協議が行われた。

(委員)

ヌマオロ地区の旧川復元地区にかかる予算は、どのくらいなのか。

(事務局)

約10億円くらいである。

(委員)

エゾハリスゲが工事用道路の周辺域で確認されたということだが、移植が必要なほど改変率が高い状態なのか。移植をすることで、逆に攪乱も起こるのではないか。

(委員)

エゾハリスゲの移植に関しては、帯広開発建設部で実績があるので、参考になると思う。

(事務局)

情報を入手して、参考にしたい。

(委員)

茅沼地区では絶滅危惧ⅠA、ⅠB類に該当する種を対象に移植を行ったので、今回も同じ基準で考えている。移植対象のエゾハリスゲは株数は多くないので、どこか1箇所に適地を探して移植すれば、それほど難しいものではないと思っている。エゾハリスゲは、それほど根も張っていないようなので、比較的簡単に移植できていると思っている。

■その他(情報提供)

事務局から、釧路川河川整備計画(国管理区間)(平成20年3月策定)の見直しに向けた情報提供を行った。

以 上